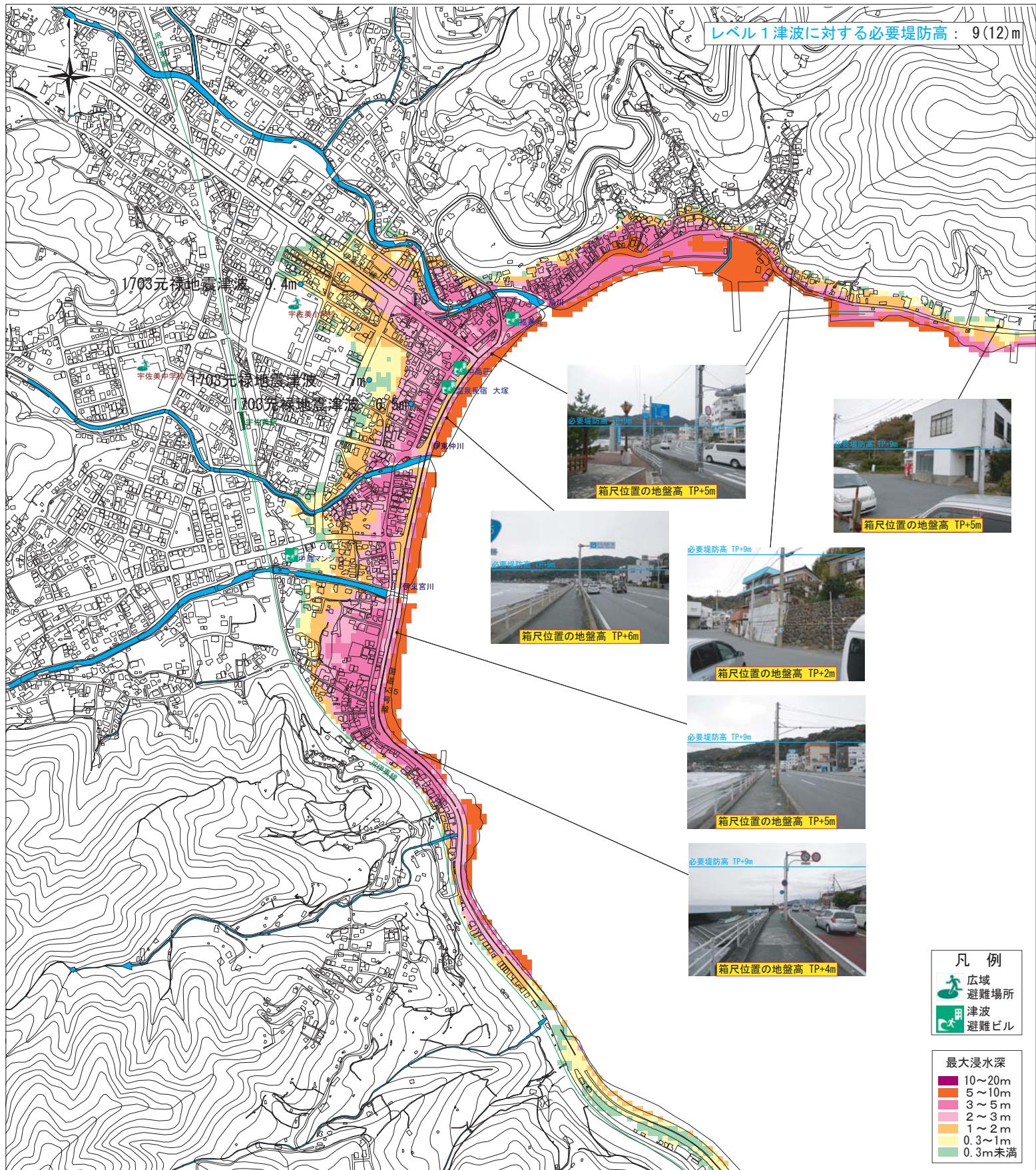


宇佐美地区 地区協議会用参考図



大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生類度は200~400年と推定。

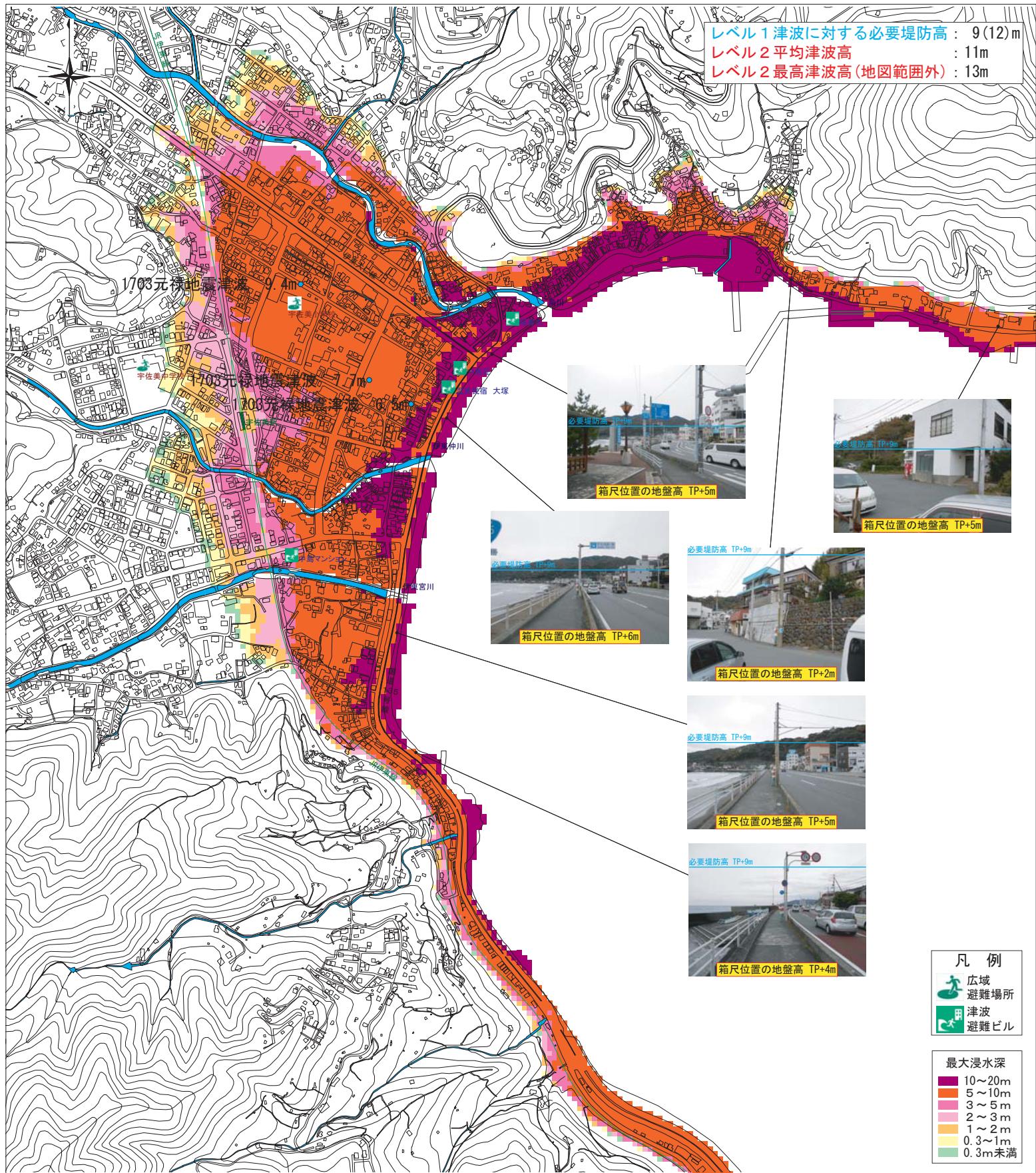
過去の津波の出典：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）

レベル1津波に対する必要堤防高の()は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の収斂により、津波高の変化が確認できるために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。

津波高の変化が確認できるために細分して設定した区間のレーベル津波に対する必要堤防高です。この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報をお重ね合わせた参考図です。

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

宇佐美地区 地区協議会用参考図



相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。

過去の津波の出典：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）

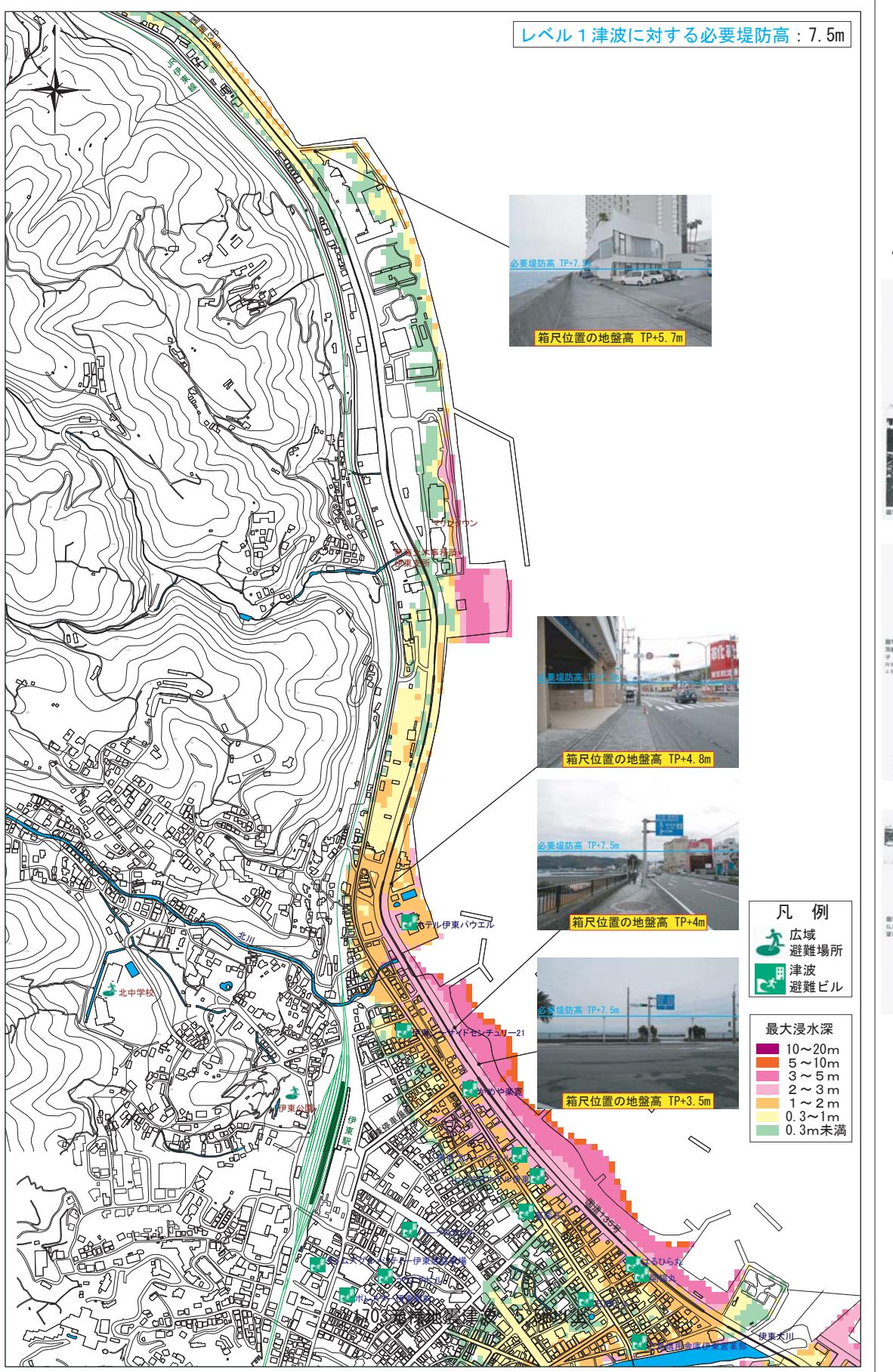
過去の津波の出発点・津波放散点等を用いて、(木北大介・原了方龍剛) レベル1津波に対する必要堤防高の()は地域海岸内に港湾や漁港等の防波堤等が存在することによる減衰効果や隅角部等での津波の収斂により、津波高の変化が確認するために細分して設定した区間のレベル1津波に対する必要堤防高です。

この地図は、島で作成した浸水想定区域図と国土土地院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

A horizontal scale bar representing distance. It features numerical markings at 0, 100, 200, 300, 400, and 500 meters. The segments between these markings are divided into smaller, unlabeled increments. A label "Scale = 1:2,500" is positioned below the bar.

湯川地区 地区協議会用参考図



大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

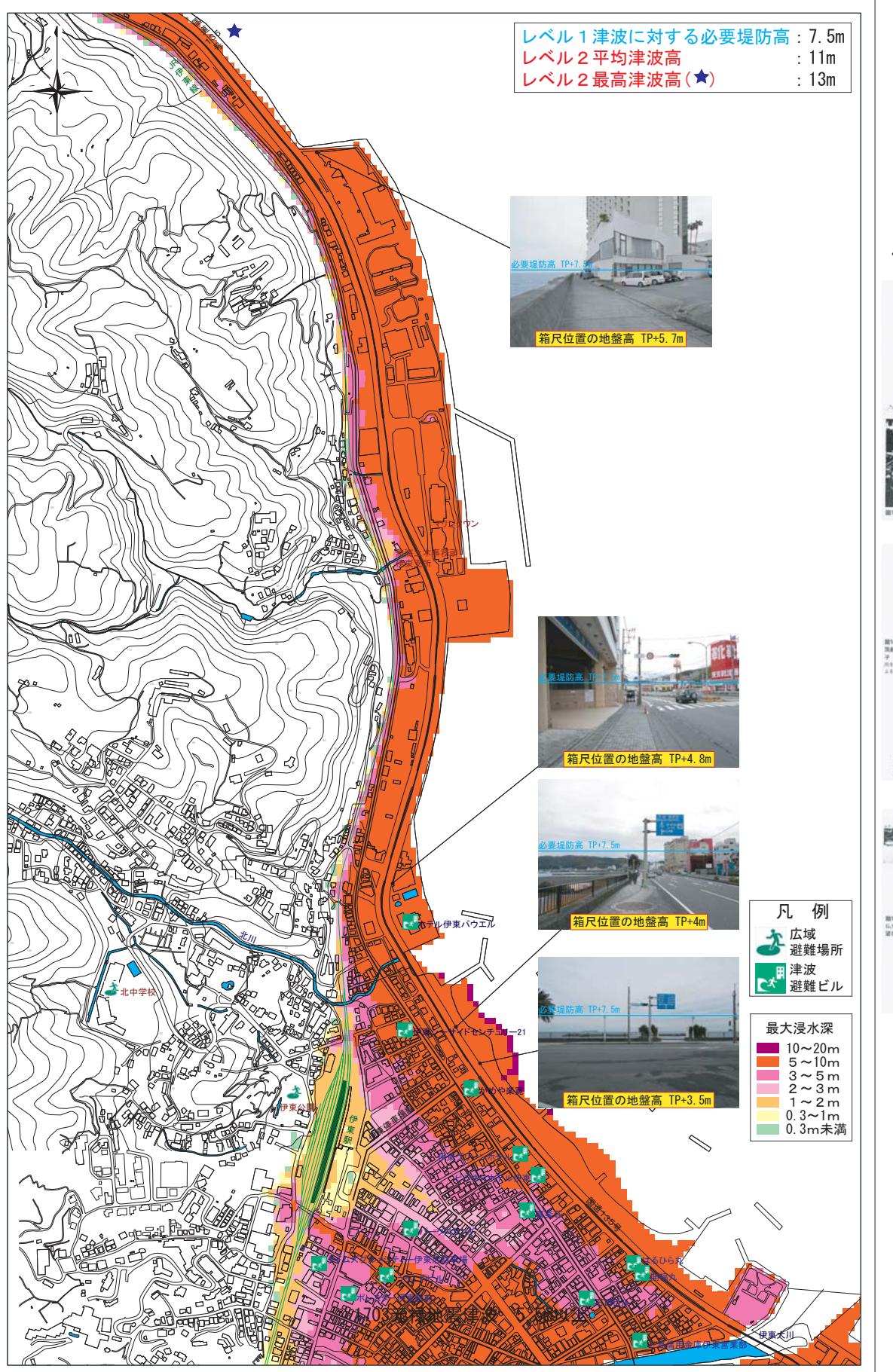
レベル1津波の平均発生頻度は200～400年と推定。

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。

この地図は、衆て作成して凌々忘却地図と画工場焼院の墨盤地図情書を重ねて百叶せた参考圖考で、この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しました。(承認番号平26情使 第861号)

A horizontal scale bar with markings at 0, 100, 200, 300, 400, and 500 meters. Below the bar, the text "Scale = 1:2,500" is centered.

湯川地区 地区協議会用参考図



相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

図14-4 東京港の被災状況



図14-7 東京港の津波被災状況



図14-8 田町駅周辺の被災状況



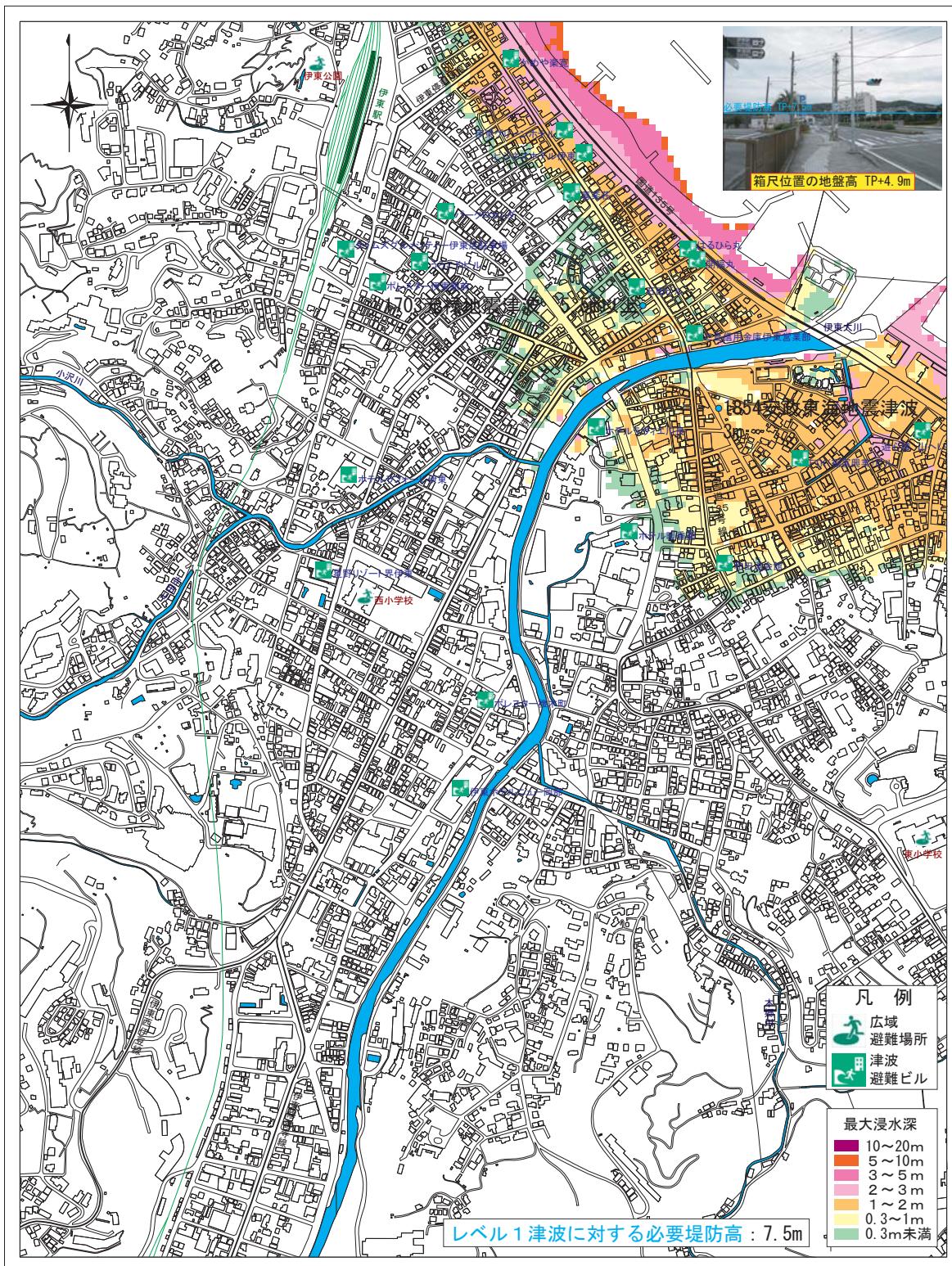
図14-11 伊豆大川河口付近の被災状況



図14-12 伊豆大川河口付近の被災状況



松原、岡地区 地区協議会用参考図



大正型関東地震（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200~400年と推定。

過去の津波の出典：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。

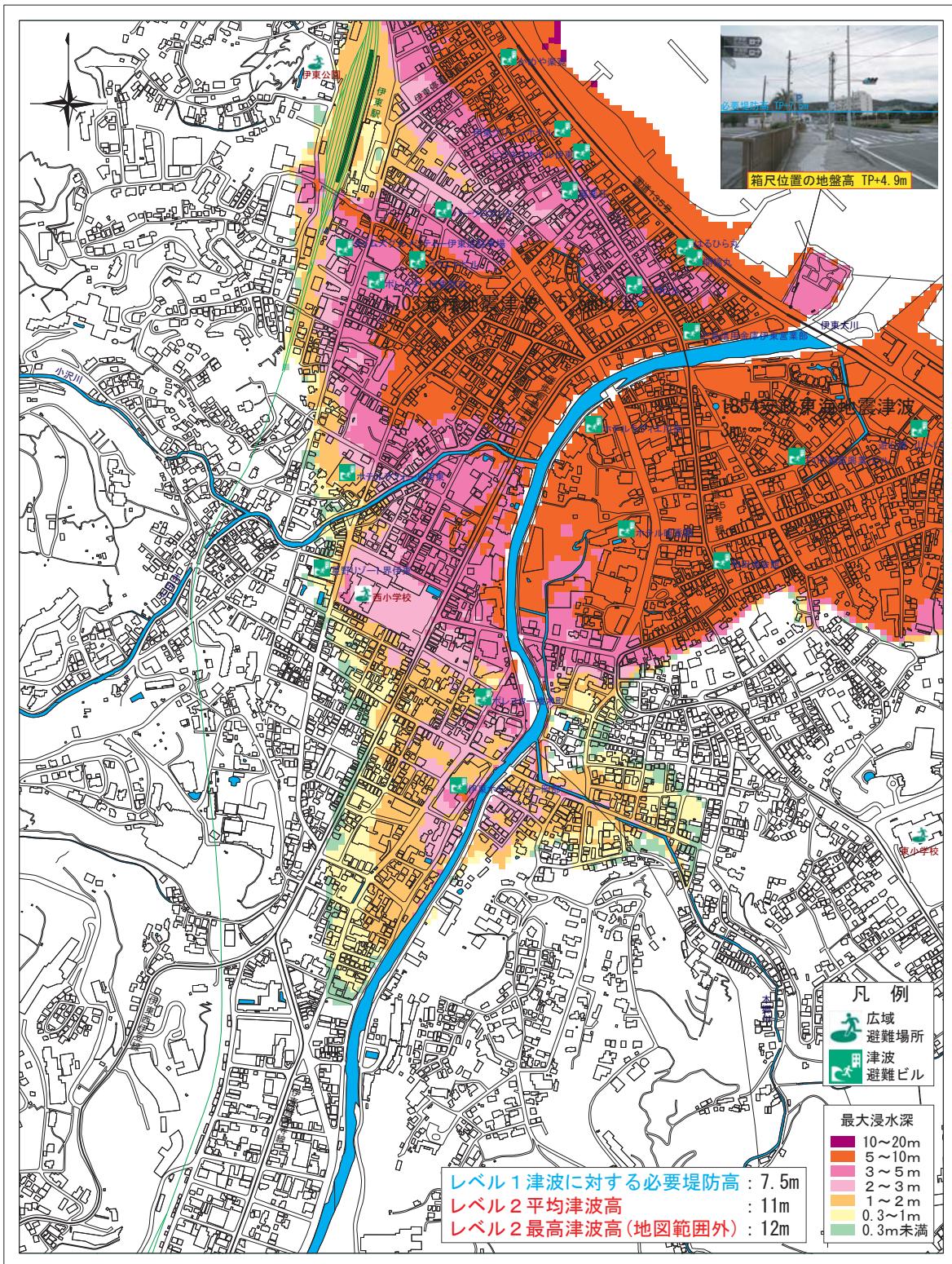
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用しました。（承認番号 平26情使 第861号）

A scale bar diagram representing distances from 0 to 500 meters. The horizontal axis is marked at 0, 100, 200, 300, 400, and 500m. Below the axis, a series of small black squares are placed along the line, starting from the origin. The distance between the first two squares is labeled as 100 units. The total length of the scale bar is 500 meters.

関東大震災被災状況



松原、岡地区 地区協議会用参考図



相模トラフ沿いの最大クラスの地震（レベル2）最大浸水深図（m）

レベル2津波の平均発生頻度は2千年から3千年と推定。

過去の津波の出典：津波痕跡データベース（東北大学・原子力規制庁）

この地図は、県で作成した浸水想定区域図と国土地理院の基盤地図情報を重ね合わせた参考図です。

この地図は、常に「作成して」微小误差正区域に国土地理院の基盤地図情報を書き込む旨に記載されています。



松原、玖須美、岡、新井地区

圖考參用議會協地區

關東大震災被災狀況



第1節 地震大震災

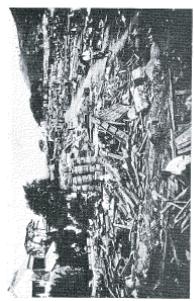
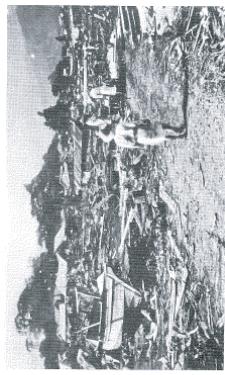


圖14-7 改善車輛安全



100



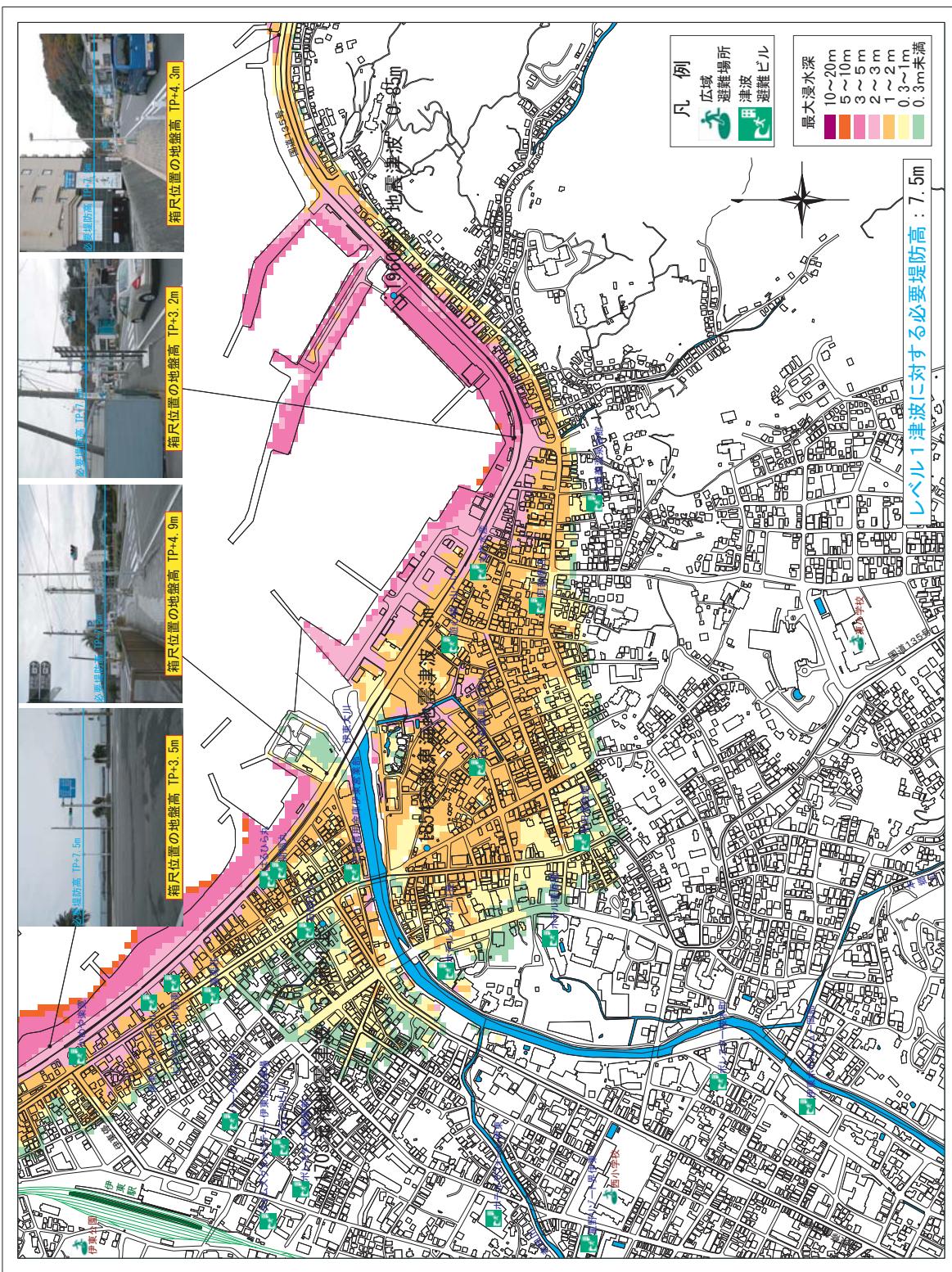
図14-13
伊東大川河口付
近の様子



図14-15
仏光寺前から西側を
望む



114-16
和田1丁目か
新井方向を見
津波による桟
橋状況



大型震度（レベル1）最大浸水深図（m）

レベル1津波の平均発生頻度は200～400年と推定。

松原、玖須美、屈、新井地区協議会用参考図

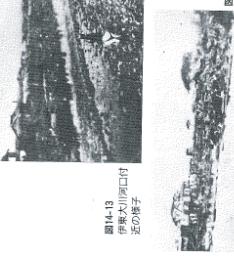
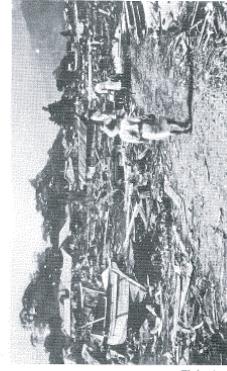
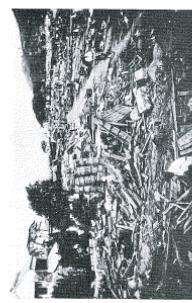
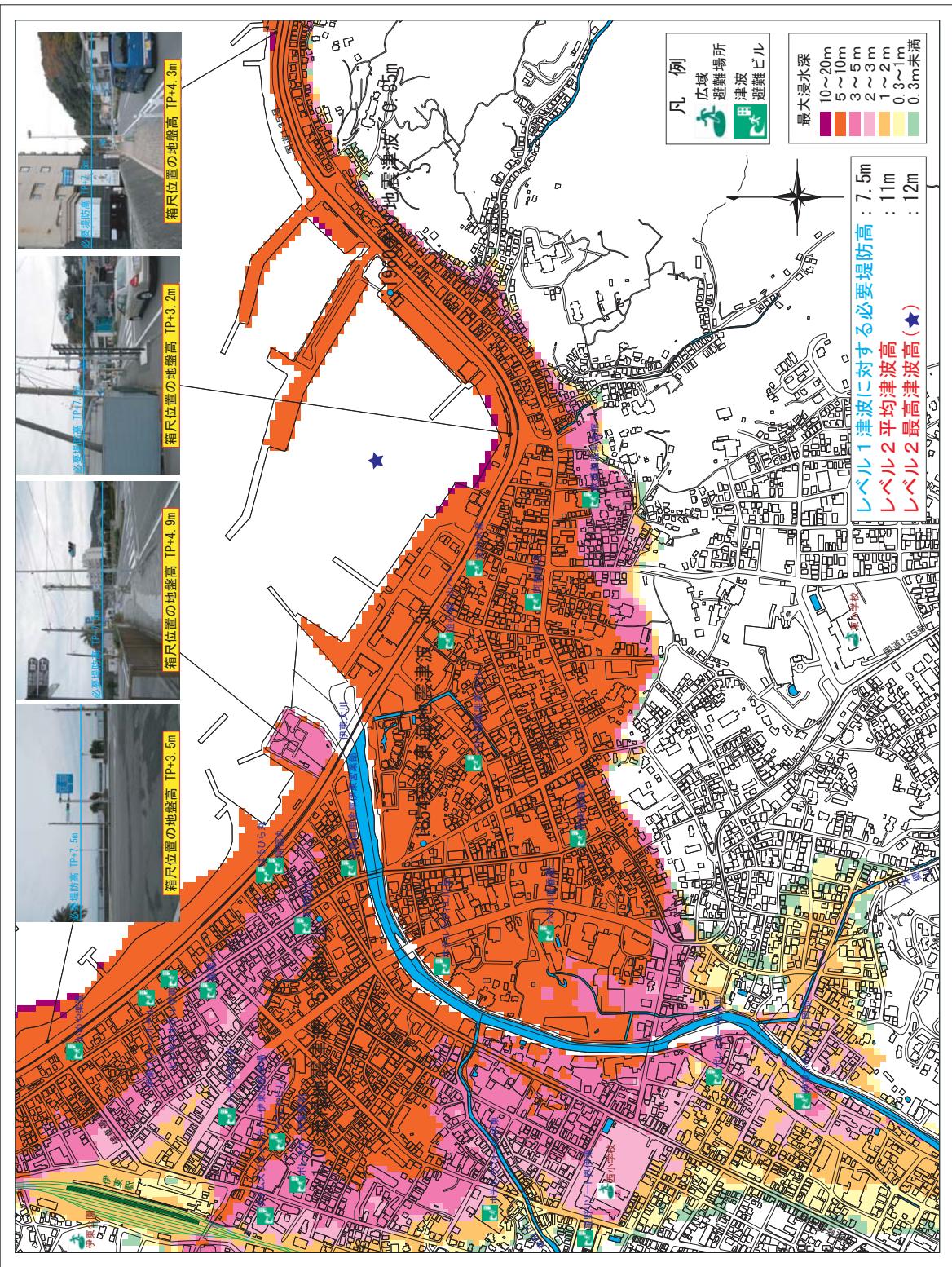


図14-16 陸奥大震災